

ぎんれい会 平成三十年六月

萱草の日々咲きはる実家に居

主幸 細野恵久 福祉三期

サイクリングじゃが芋の花帽に挿し

増田和子 食文一期

六月や白衣出立つ能舞台

改正節夫 国際三期

六月や風の湿りに裸婦の像

三枝邦光 美工五期

海猫の丘会津藩士の墓碑に鳴く

國永靖子 音文六期

六月の磯ウミウシゆらりのそと

猿橋二三雄 福祉八期

安保はるかあの六月よ唐牛よ

加藤善巳 美工八期

粗塩の吠じつとり六月来

太田 實 国際十期

糠床をかき混ぜ夏を迎えおり

大下絹子 国際十五期

六月や地球公転はや半ば

中村建生 国際十五期

万緑のわさわさ迫る中にいる

藤本武子 国際十五期

薔薇切るに庭師の狭容赦なし 山下 進 国際十五期

紫陽花や異教徒遺す仮名の文字 許斐國照 食文十五期

六月尽通過ばかりの新幹線 宮本公子 健福十七期

更衣妹の箆筒のふくらめり 沖本元辺子 国際十七期

昨夜の雨あまたの蕾傾ぶ百合 香春早苗 国際十七期

六月や泥吐く魚の匂ひくる 仲田慎輔 国際十七期

麦の秋赤白帽の駆け抜ける 中村富美子 国際十七期

六月や雨にけむれる花時計 小栗恭子 健福十八期

六月や小祿の塚に残る黙 潮江敏弘 健福十八期

夏の星溢れ止まざるカールかな 野見山剛 健福十八期

水撒きのグラウンド整備虹ゆるる 大山吉春 国際十八期

古稀といふ難所あるかも青嵐 今井義和 美工二十期

螢火や此の先黄泉の戻り橋 尾崎育久 美工二十一期

薔薇咲きて口紅強く引きにけり 黒木早苗 食文二十一期

病んだ身に六月の風ほんのりと

宮脇暁美 食文二十一期

六月は花色追つて北大地

藤川敏子 国際二十二期

曇天や定時定点時鳥

日種 晃 生環二十二期

第二百五十回ぎんれい句会（六月八日開催）より